

新薬開発状況

(2018年7月現在)

前回の決算発表時(2018年4月26日)からの変更箇所を下線

がん領域 (1/2)

*共同研究により創出された化合物を含む。

開発コード 一般名 (製品名)	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階/地域	剤形	自社*/導入	Focus Area アプローチ
MDV3100 エンザルタミド (イクスタンジ®)	アンドロゲン受容体阻害剤	非転移性去勢抵抗性前立腺がん	承認(2018年7月)/米国 申請(2018年1月)/欧州	経口	Pfizer	
		非転移性ホルモン感受性前立腺がん	P-III/米国、欧州、アジア			
		転移性ホルモン感受性前立腺がん	P-III/米国、欧州、日本、アジア			
ASP3550 デガレリクス (ゴナックス®)	GnRH受容体アンタゴニスト	前立腺がん(3か月製剤)	申請(2017年11月)/日本	注射	Ferring	
AMG 103 プリナツモマブ	抗CD19 BiTE抗体	急性リンパ性白血病	申請(2018年1月)/日本	注射	Amgen [アステラス・アム ジェンと共同開発]	
ASP2215 ギルテリチニブ	FLT3/AXL阻害剤	急性骨髄性白血病 (再発又は難治性)	申請(2018年3月)/米国、日本 P-III/欧州、アジア	経口	自社	
		急性骨髄性白血病 (寛解導入化学療法後の維持療法)	P-III/米国、欧州、日本、アジア			
		急性骨髄性白血病 (造血幹細胞移植後の維持療法)	P-III/米国、欧州、日本、アジア			
		急性骨髄性白血病 (新規診断、低強度の寛解導入化学療法との併用)	P-II/III/米国、欧州、日本、アジア			
		急性骨髄性白血病 (新規診断、強力な寛解導入化学療法との併用)	P-I/米国、日本			
IMAB362 zolbetuximab	抗Claudin 18.2 モノクローナル抗体	胃腺がんおよび食道胃接合部腺がん	P-III/米国、欧州、日本、アジア	注射	自社 (Ganymed)	
ASG-22ME enfortumab vedotin	ネクチン4を標的とするADC	尿路上皮がん	P-III/米国、欧州、日本、アジア	注射	自社 [Seattle Geneticsと 共同開発]	
AGS-16C3F	ENPP3を標的とするADC	腎細胞がん	P-II/米国、欧州	注射	自社 (ADC技術をSeattle Genetics から導入)	
AGS67E		悪性リンパ腫	P-I	注射	自社 (ADC技術をSeattle Genetics から導入)	

がん領域 (2/2)

*共同研究により創出された化合物を含む。

開発コード 一般名 (製品名)	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階/地域	剤形	自社*/導入	Focus Area アプローチ
AGS62P1		急性骨髄性白血病	P- I	注射	自社 (EuCODEを用いた ADC技術を Ambrxから導入)	
ASP8374/PTZ-201		がん	P- I	注射	Potenza Therapeuticsとの オプション契約	バイオロジー:がん免疫
ASP1948/PTZ-329		がん	P- I	注射	Potenza Therapeuticsとの オプション契約	バイオロジー:がん免疫

前回の決算発表時(2018年4月)からの変更点:

MDV3100 (エンザルタミド): 非転移性去勢抵抗性前立腺がんを適応症として、2018年7月に米国で承認を取得した。

ASP1948/PTZ-329: がんを対象とした開発を開始した。

免疫科学、筋疾患及び眼科疾患領域

*共同研究により創出された化合物を含む。

開発コード 一般名 (製品名)	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階/地域	剤形	自社*/導入	Focus Area アプローチ
FK506 タクロリムス	免疫抑制剤	臓器移植における拒絶反応の抑制(小児用顆粒製剤)	承認(2018年5月)/米国	経口	自社	
ASP015K ペフィシチニブ	JAK阻害剤	関節リウマチ	申請(2018年5月)/日本	経口	自社	
ASKP1240 bleseelumab	抗CD40モノクローナル抗体	生体腎移植患者における再発性巣状糸球体硬化症	P-II / 米国	注射	協和発酵キリン	
ASP4070/ JRC2-LAMP-vax	スギ花粉DNAワクチン	スギ花粉症	P-II / 日本	注射	Immunomic Therapeutics	モダリティ/テクノロジー: LAMP-vax テクノロジー
ASP5094	抗alpha-9インテグリン モノクローナル抗体	関節リウマチ	P-II / 日本	注射	自社	
CK-2127107 reldesemtiv	速筋トロポニン活性化剤	脊髄性筋萎縮症	P-II / 米国	経口	Cytokinetics	バイオロジー: 分子モーター
		慢性閉塞性肺疾患	P-II / 米国			
		筋萎縮性側索硬化症	P-II / 米国			
ASP7317	細胞医療(網膜色素上皮細胞)	萎縮型加齢黄斑変性、Stargardt 病	P-II / 米国	注射	自社 (Astellas Institute for Regenerative Medicine)	モダリティ/テクノロジー: 細胞医療
MA-0211		デュシェンヌ型筋ジストロフィー	P-I	経口	自社 (Mitobridge)	バイオロジー: ミトコンドリア
ASP0892		ピーナッツアレルギー	P-I	注射	Immunomic Therapeutics	モダリティ/テクノロジー: LAMP-vax テクノロジー

前回の決算発表時(2018年4月)からの変更点:

FK506(タクロリムス):臓器移植における拒絶反応の抑制を適応症として、小児用顆粒製剤が2018年5月に米国で承認を取得した。

ASP015K(ペフィシチニブ): 関節リウマチを適応症として、2018年5月に日本で申請した。

泌尿器及び腎疾患領域

*共同研究により創出された化合物を含む。

開発コード 一般名 (製品名)	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階/地域	剤形	自社*/導入	Focus Area アプローチ
EB178 ソリフェナシン/ ミラベグロン	ソリフェナシンとミラベグロンの 併用療法	尿意切迫感及び頻尿の症状を伴う過活動膀胱	承認(2018年4月)/米国	経口	自社	
YM905 ソリフェナシン	ムスカリンM ₃ 受容体拮抗剤	小児の神経因性膀胱	申請(2017年2月)/米国	経口	自社	
ASP1517/FG-4592 ロキサデュスタット	HIF安定化剤	慢性腎臓病(保存期及び透析期)に伴う貧血	P-III/欧州 P-III/日本	経口	FibroGen	
YM178 ミラベグロン	β ₃ 受容体作動薬	小児の神経因性膀胱	P-III/欧州	経口	自社	
YM311/FG-2216	HIF安定化剤	腎性貧血	P-II/欧州 P-I/日本	経口	FibroGen	
ASP6294	神経成長因子中和抗体	膀胱痛症候群/間質性膀胱炎	P-II/欧州	注射	自社	
ASP8302	ムスカリンM ₃ 受容体陽性アロ ステリック修飾物質	低活動膀胱	P-II/欧州、日本	経口	自社	
ASP7713		低活動膀胱	P-I	経口	自社	
MA-0217		急性腎障害	P-I	注射	自社 (Mitobridge)	バイオロジー: ミトコンドリア

前回の決算発表時(2018年4月)からの変更点:

EB178(ソリフェナシン/ミラベグロン): 尿意切迫感及び頻尿の症状を伴う過活動膀胱を適応症としたソリフェナシンとミラベグロンの併用療法について、2018年4月に米国で承認を取得した。

ASP8232: 戦略的な優先度の観点から、Phase 2段階にあった糖尿病性腎疾患を対象とした開発を中止した。

その他

*共同研究により創出された化合物を含む。

開発コード 一般名 (製品名)	薬効/作用機序	対象疾患	開発段階/地域	剤形	自社*/導入	Focus Areaアプローチ
フィダキソマイシン	大環状抗菌剤	感染性腸炎(適応菌種:クロストリジウム・ディフィシル)	承認(2018年7月)/日本	経口	Merck	
		小児におけるクロストリジウム・ディフィシル感染症	P-III/欧州			
AMG 785 ロモズマブ	抗スクレロシン モノクローナル抗体	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	申請(2016年12月)/日本	注射	Amgen [アステラス・アム ジェンと共同開発]	
ASP1941 イブラグリフロジン (スーグラ®)	SGLT2阻害剤	1型糖尿病	申請(2018年1月)/日本	経口	自社 [寿製薬と共同 開発]	
ASP0456 リナクロチド (リンゼス®)	グアニル酸シクラーゼC 受容体作動薬	慢性便秘症	申請(2017年9月)/日本	経口	Ironwood	
ESN364 fezolinetant	NK3受容体拮抗薬	更年期に伴う血管運動神経症状	P-II/米国 P-I/日本	経口	自社 (Ogeda)	
ASP0819	カルシウム活性化 カリウムチャネル開口薬	線維筋痛症	P-II/米国	経口	自社	
ASP4345	ドーパミンD1受容体陽性 アロステリック修飾物質	統合失調症に伴う認知機能障害	P-II/米国	経口	自社	
ASP1807/CC8464		神経障害性疼痛	P-I	経口	Chromocell	
ASP6981		統合失調症に伴う認知機能障害	P-I	経口	自社	
MucoRice-CTB		コレラ菌による下痢症の予防	P-I	経口	東京大学 医科学研究所	

前回の決算発表時(2018年4月)からの変更点:

フィダキソマイシン(ダフクリア®):感染性腸炎(適応菌種:クロストリジウム・ディフィシル)を適応症として、2018年7月に日本で承認を取得した。

ASP8062: Phase 2 試験において主要評価項目を満たさなかったため、Phase 2 段階にあった線維筋痛症を対象とした開発を中止した。

MucoRice-CTB: コレラ菌による下痢症の予防を対象とした開発を開始した。